

身体を動かしたり、黙々と作業をすることが好きで、
大学卒業後に左官職人へ。



Tetsuo Mai
鉄尾 麻衣

左官職人

有限会社八幡工業（町場）

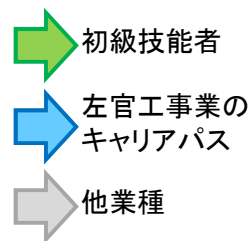
職歴半年
（平成5年生・23歳）



22歳

左官工事業
会社に入社

キャリアパス凡例



就職活動で、自分に向いていそうな仕事が左官職人だった

【これまでのキャリアパス】

大学生4年生の就職活動中に行った自己分析で、身体を動かしたり黙々と作業することが好きだということが分かりました。部活の先輩に相談したところ、建設業の専門工事業を教してもらい、どのような職人があるのかを調べてみると、中でも自分に一番ぴったりくる仕事が左官職人だったので、とにかくやってみる、やってみたいという思いで入職しました。

左官という言葉は小学校の教科書で知っていましたが、仕上げの軽やかなイメージしかありませんでした。現在は見習いという立場ですが、現実には塗る作業の他にも、段取りや準備、下処理など、多くの仕事があることを知りました。今は現場で教えてもらいながら仕事をして、日々自分が上達していることが感じられて、やりがいを感じています。

風景や生活の中に残る、自分だけの仕事

【現在の仕事の魅力】

風景や生活の中に一生残る仕事で、塗り方によって模様の付き方が違うなど、自分だけの仕事になることが左官工事業の魅力だと思います。また、目標になる先輩方もいるので、自分もいつかはあいう仕事をしたいと思います。

現場仕事ですから、暑い寒いがありますし、重いものを運ぶ機会も多いです。また、これまで男性中心の職場だったので、トイレが汚い、着替える場所がないなどの苦勞もありますが、日々の仕事の中で自分の上達を感じられるやりがいのある仕事です。

まずは2年後の2級技能検定合格を目指して、最終的には一人で現場を任せてもらえるような職人になりたいと思っています。

自分のやりたいことへ進んでほしい

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

建設業の職人というと怖そうな世界というイメージがありますが、実際にやってみるとそんなことはありません。そういったイメージを気にせず、サラリーマンやOLといった企業に勤めることと同じ選択肢として、自分のやりたい事へ進んで欲しいと思います。

大きなスケールで空間を生み出す壁に興味を持ち、
家具店店長から左官職人に。



Abe

Yuri

阿部

由里

左官職人

株式会社あじま左官工芸（伝統技術）

見習い

職歴2年

（昭和57年生・34歳）



22歳

他業種（家具店）

32歳

転職

左官工事業
会社に入社

キャリアパス凡例

初級技能者

左官工事業の
キャリアパス

他業種

大きなスケールで空間をつくる「壁」

【これまでのキャリアパス】

空間を作る壁への興味

芸術系の大学で半立体的な作品制作を学び、家具店に就職しました。修理や発注、店長などを経験し、並行して作品制作を続けていました。

作品制作を通じて、より大きなスケールで空間を生み出す壁への興味がどんどん高まっていき、左官の世界に興味を持ちました。ネットや雑誌で左官工事業の会社について情報収集を行い、32歳の時、伝統技術で壁づくりをしている現在の会社に転職しました。

簡単に女性のできる仕事とは言えない。でも、先輩方の理解とサポートに支えられている

見習いですから、材料の準備や養生、掃除など、親方やチームを補助する仕事を主に担当しています。また、工期に余裕がある現場などでは、壁を塗る作業を教えてもらうこともあります。

一度に運べる材料の量が男性と比較して少ないなど、簡単には「女性の出来る仕事」とは言えないと思います。自分の場合は、先輩方の理解とサポートもあり、支えられている部分が大きいと感じています。

自分もこのような壁をつくりたい、と思わせる先輩の仕事

【現在の仕事の魅力】

人手が必要な現場に配属されるため、毎日が目まぐるしく過ぎていきますが、先輩の塗った壁が仕上がった時には、「自分もこのような壁をつくりたい」という思いになります。

まずは2級技能検定に合格して、壁を塗る仕事ができるようになることを目標として、自社倉庫での練習に取り組んでいます。

普通の壁の格好良さに、思わずはっとする

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

左官の仕事始めて知識が付いてくると、今までは気にしていなかった普通の壁の格好良さに思わずはっとする事が増えました。左官を知ると、日々の生活の中にそういった面白みも生まれてくると思います。是非、左官という世界を知ってみてください。

他業種から24歳で左官職人に。

職歴10年で登録基幹技能者となる。



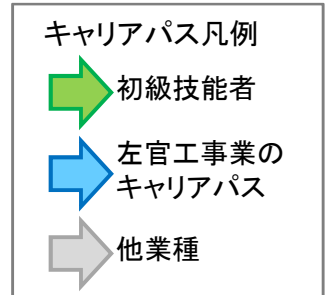
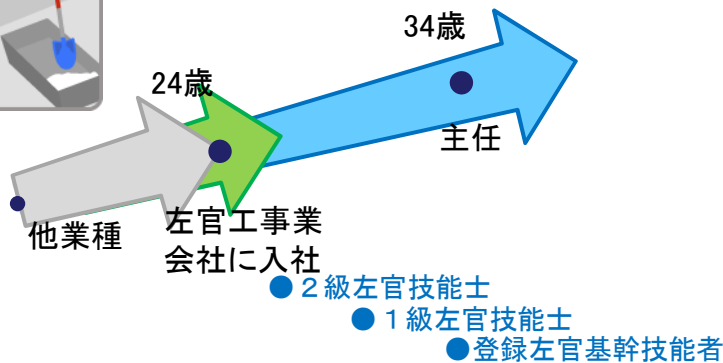
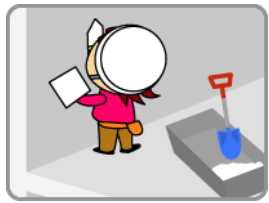
Nagatsuka Isamu

長塚 勇

左官職人

有限会社八幡工業（町場）主任

職歴12年
（昭和55年生・36歳）



現場を任される主任技術者

【これまでのキャリアパス】

高校卒業後、地元で造園工事やトラック運転手をしていましたが、24歳の時に叔父である社長に誘われて現在の会社に就職しました。

入社後は見習いから始まり、材料運びや養生、準備等、現場での作業補助が中心でした。1年ほど経験を積むと下地塗り等の作業で少しだけ壁を塗らせてもらえるなど、徐々に仕事の内容が変わってきました。

入社してから3年で2級左官技能士を取得し、6年ほどで仕上げを任せられるようになりました。5年前に1級左官技能士、2年前に登録基幹技能者を取得し、現在は主任技術者として現場をまとめています。大きな現場では、後輩をまとめながら仕事を進め、小さな現場では一人で仕事を仕上げるなど、現場を任せられています。

手に職をつけることが実感できるのが左官の魅力

【現在の仕事の魅力】

入社間もない頃は、複数の現場を移動したり、つらかった事の方が印象に残っています。屋外仕事で冬寒く夏暑い、朝早く夜遅いなど、楽な職場とは言えません。加えて、左官は技能の修得に時間がかかります。しかし、中々身につかない中でも、徐々に仕事の範囲が広がったり、日々の積み重ねで正確さや早さを高めたり、手に職をつけることを実感できるのが左官という仕事の魅力です。

左官という仕事は奥深く、技能の限界がないことが大きな魅力です。今後の目標は、自身の技能・技術に磨きをかけ、さらに仕事の質を高めていきたいと考えています。

仕事が形になって直接感じることができる

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

左官という職業は、難しい技術の修得や、仕事の正確さ、早さなど、経験を積んだあとからも技能・技術を追求し、仕事の中に発見があります。また、仕事が形になって現れるため、ものづくりの楽しさや自分でつくった喜びが直接感じることができるなど、大変やりがいのある仕事です。

2度の転職で野丁場・町場・伝統技術の技能を修得し、
現在は文化財建築物等の保存・修復工事現場の統括。



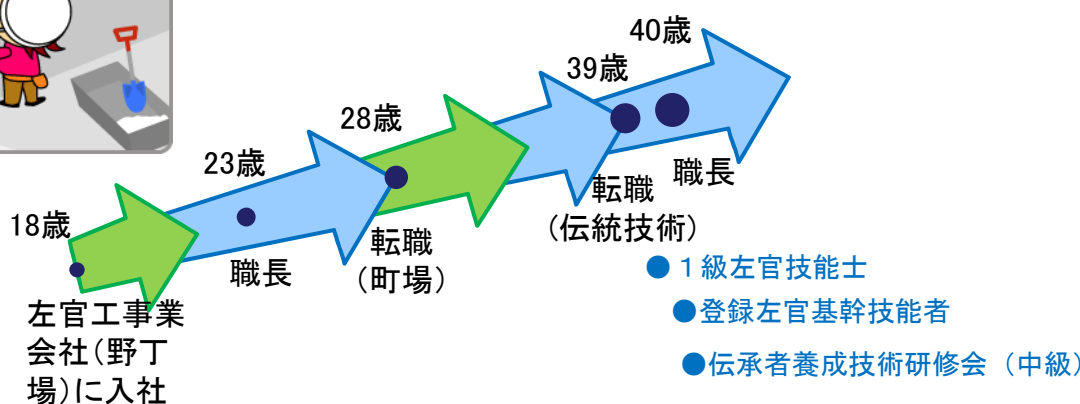
Hase
長谷

Kiyotaka
清高

左官職人

株式会社あじま左官工芸（伝統技術） 職長

職歴25年
(昭和47年生・44歳)



キャリアパス凡例

- 初級技能者
- 左官工事業のキャリアパス
- 他業種

伝統的な左官技能を身に付けるため、再び見習いから始めた

【これまでのキャリアパス】

土を使う厚塗りの仕事がしたかった

高校卒業後、ビルやマンションなど、野丁場での薄塗り仕上げを中心とする左官会社で10年程働いており、見習い3年、職人2年を経て、職長として現場の統括をしていました。しかし、土を扱う伝統的な厚塗り工法の仕事をしたいと考えるようになり、そういった工事を請け負う左官会社に転職しました。

厚塗りとは薄塗りは全く異なるため、再び見習いからスタートしました。6年間は見習いとして技能の修得に励み、4年ほど職人として厚塗りの仕事を任せていました。そして、5年前に現在の会社に入社しました。

入社後に1級左官技能士、登録左官基幹技能者の資格取得とともに、全国文化財壁技術保存会の伝承者養成技術研修会（中級）の受講など、より高い技術の習得を目指しています。現在は、社寺建築などの文化財建造物を対象とした保存・修理の左官工事を主に担当しており、職長として、保存・修理の専門家との打ち合わせや、現場の統括を任されています。

楽しく、やりがいのある厚塗りの仕事

【現在の仕事の魅力】

大きな現場では作業量が多く、どうしても気になる部分が生じてしまうため、小さな現場でも見栄え良く完工した仕事が良い印象として残っています。

厚塗りの仕事は楽しくてやりがいがあり、辛いと感じたことはあまりありません。これからも一日一日を精進し、自分に仕事がある限りは続けていきたいと思っています。

楽しみながら技術・技能を高めていく

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

左官は技術・技能を修得する期間が必要なため、入ってから3～5年間は苦しい期間があると思います。しかし、技術・技能を身に付け、自分で出来るようになる面白くなり、楽しみながら技術・技能を高めていくことが出来ます。

18歳から34年間一人親方として働いたのち、
52歳で正社員として左官工事業会社に入社。



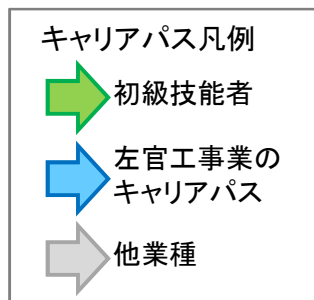
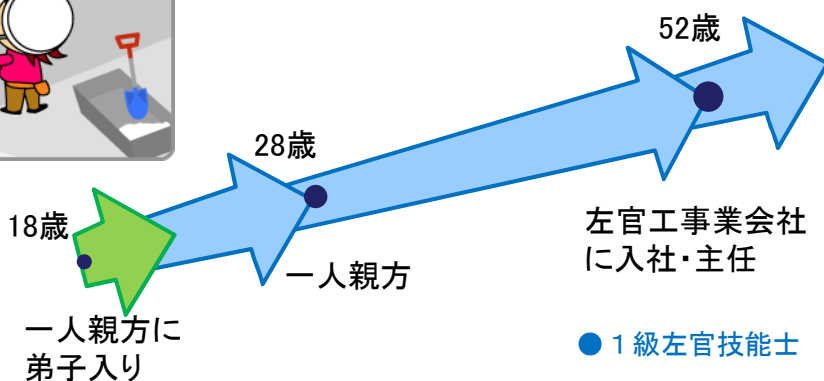
Hirano
平野

Toshikatsu
敏勝

左官職人

有限会社八幡工業（町場）主任

職歴37年
（昭和36年生・55歳）



主任技術者として、現場をまとめ、後輩を指導

【これまでのキャリアパス】

父親が左官職人で、中学生の頃に手伝いをしたことで左官工事というものを知りました。高校卒業後は調理専門学校への進学も考えましたが、父親に誘われて左官職人になることを決めました。

父親は所謂頑固な職人であり、鏝（コテ）を持たせてもらうまでに3年掛かりました。父親と一緒に仕事をする中で、27～28歳の頃に工務店さんから自分で仕事を請け始めました。その後、父親から看板を受け継ぎ、一人親方として現在の会社からの仕事も請け負っていました。

6年前に1級技能検定に合格し、3年前に社長から入社を薦められました。自分だけで仕事をするよりも多くの仕事に関われることや、仕事が切れないことなどから入社を決めました。

現在は自分の仕事や後輩の指導などを行いながら、主任技術者として現場をまとめています。

タイミングと技術が一致した時に初めて良い仕事ができる

【現在の仕事の魅力】

マンションの内装リフォーム工事の際、厚塗りの左官工事でやりたいというお施主さんが「良い仕事をして欲しい」というオーダーで、仕様などを全て任せてもらえた時は職人冥利に尽きる印象的な仕事でした。

左官工事は難しい仕事をやり遂げた時に大きな充実感があります。水を扱う仕事なので、タイミングや技術が一致した時に初めて良い仕事ができます。左官職人として37年が過ぎましたが、まだまだ良い仕事をしたい気持ちで、技能を追求し続けられる事に大きな魅力を感じています。

最近では若い頃と比べて身体がついて行かないと感じることもありますが、身体が許す限り完璧な仕事を目指して技能を追求していきたいと考えています。

技能を迫及できる奥深い世界

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

左官工事業は誰にでも出来るものではなく、一朝一夕で身につく技能・技術ではありません。そして次から次へと技能を追求し、もっと上手く出来ることを追いかけられる奥深い世界です。だからこそ、若い人たちには左官の技能・技術を修得し、がんばってもらいたいと考えています。

50歳で一人親方から工事部長として正社員に。
59歳の時、瑞宝単光章を賜る。



Saito
齋藤 万千四郎

左官職人

徳和工業株式会社（野丁場）工事部長

職歴49年
（昭和27年生・64歳）



15歳

一人親方に
弟子入り

一人親方

● 1級左官技能士

50歳

左官工事業会社へ
入社・工事部長

● 登録左官基幹技能者

59歳

● 瑞宝単光章
受章

キャリアパス凡例

➡ 初級技能者

➡ 左官工事業の
キャリアパス

➡ 他業種

キャリアを重ね、瑞宝単光章を賜った

【これまでのキャリアパス】

入職3年目後半になって初めて自分で壁を仕上げた

中学校卒業後、製造業に就職しようと考えていましたが、家族の薦めもあり、左官の親方であった義兄に弟子入りしました。弟子入り後、2年間は材料を運ぶ、捏ねるなど、準備が仕事の中心でした。3年目の後半になって、初めて自分で壁を仕上げさせてもらったことは良く覚えています。その後、27歳で1級左官技能士を取得しました。

主任技術者として現場をまとめ、最前線で鏝(コテ)を持つ

義兄が現在の会社の専属請負（一人親方、個人事業主）であったことから、自身もその流れを受け継ぎ、専属請負として仕事をしていましたが、50歳頃に工事部長として社員となりました。54歳で登録左官基幹技能者を取得し、現在は5人の職人を束ね、主任技術者としてマンション新築工事などの現場の統括、元請けとの調整とともに、最前線で鏝(コテ)を持って左官仕事を行っています。

また、59歳にはこれまでの仕事が評価され、瑞宝単光章を賜りました。

手に職をつけることで、身体が続く限り仕事ができる

【現在の仕事の魅力】

建設業は総合工事業（ゼネコンなど）、多くの専門工事業のチームワークで仕事を進めていきます。現場のチームワークがとても良かった現場は今でも良く覚えており、今でも建物の前を通ると当時のことを思い出します。そのように建物が残ることが、左官業の大きな魅力だと思います。

また、「手に職をつける」ことであり、身体が続く限りは仕事ができます。最近は体力が落ちてきたと感じることもありますが、趣味の釣りなどを楽しみながら、70歳までは仕事をしたいと考えています。

技能を修得すれば、どこでも仕事ができる

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

左官を仕事とすることは、「手に職をつける」ことです。一朝一夕で修得できるものではありませんが、修得すればどこに行っても職人として仕事ができると思います。

また、建設業は一品生産のため、同じ現場はありません。街の中に自分の携わった仕事がたくさん残っていくことも大きな魅力です。是非、左官の仕事をもっと知ってもらいたいと思います。

左官一筋51年。海外での施工も経験。



Shimomiya
下宮

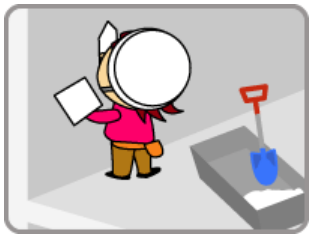
Yoshihisa
義久

高齢者
活用

左官職人

株式会社あじま左官工芸（伝統技術） 工事長

職歴51年
（昭和25年生・66歳）



15歳

左官工事業
会社に入社

28歳

職長

● 2級左官技能士

● 1級左官技能士

61歳

工事長

キャリアパス凡例

➡ 初級技能者

➡ 左官工事業の
キャリアパス

➡ 他業種

日本品質が求められ、香港での左官工事を経験した

【これまでのキャリアパス】

昔はすぐに鏝(コテ)を持たせてもらえなかった

鹿児島から上京して働いていた兄を通じ、中学卒業後に15歳で現在の会社に就職しました。昔の見習いはすぐに鏝(コテ)を持たせてもらえず、まずは材料を練ったり、養生をしたりなどの作業補助が仕事の中心でした。自分で壁を塗れるようになったのは、7~10年程経験を積んでからでした。

チームをまとめながら、現場作業の最先端で働き続ける

28歳頃から職長として現場をまとめる立場になりました。その後、工事長へとステップアップし、現場では元請(ゼネコン)や設計者との打合せ、チームの作業管理、工程管理、指導をしています。

20年ほど前には香港の工事を請け負う会社から、日本品質で左官工事をしたいとの問い合わせがあり、海外での仕事も経験しました。これからも動ける限りは鏝を持って仕事を続けていきたいと考えています。

楽しい仕事だからこそ、50年以上壁を塗っている

【現在の仕事の魅力】

自分が左官の仕事をして50年以上続けているのは、とにかく楽しい仕事だからだと思います。15歳からずっと壁を塗り続けているため、仕事と言うよりも生活の一部という感覚です。

しかし、年齢とともに視力が衰えてきており、自分では気付かないミスも出てくるようになってきました。技術やスピードはこれまでの経験の積み重ねがありますが、仕事の品質を高く維持できるかはこれからの自分の努力に掛かっていると思います。

壁を塗っている作業を見て欲しい

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

現在の建設現場は仮囲いやシートなどで覆われており、中でのどのような仕事をしているかを直接見る機会が限られています。若い人たちは実際に壁を塗っている作業を見たことがない、という方も多いと思います。まずは左官という世界があることを知って下さい。そして、実際に左官職人が仕事をしているところを見ると、やってみたく感じる人も多くいると思います。

55歳で一人親方から工事部長として正社員に。
69歳の現在も鏝（コテ）を持って最前線で活躍。

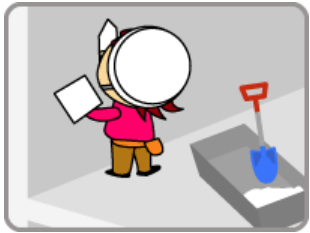


Furukawa Masatoshi
古川 政利

高齢者活用 **左官職人**

徳和工業株式会社（野丁場） 工事部長

職歴54年
（昭和22年生・69歳）



15歳

一人親方に
弟子入り

55歳

- 1級左官技能士
- 職業訓練指導員

● 登録左官基幹技能者
左官工事業
会社に入社
（工事部長）

キャリアパス凡例

- ➡ 初級技能者
- ➡ 左官工事業のキャリアパス
- ➡ 他業種

15名の職人を束ねる工事部長

【これまでのキャリアパス】

生活の中に左官があった

昔の住宅は壁やお風呂など、生活の中に左官があり、ものづくりの仕事がしたいと考えていました。海の近くに住んでいたことから造船業にも惹かれましたが、左官の親方をしていた従兄弟から誘われ、15歳で左官職人の道へ入りしました。

一人で任せてもらえるようになるのに4年掛かったが、現在も現場の最前線で壁を塗っている

入職後、指導の下、半年ほどで壁塗りの経験をしました。当時は厚塗り（20mm以上）が中心で、塗り方は2年ほどで覚えましたが、一人で壁を任されるのには4年掛かりました。40歳頃に1級左官技能士と職業訓練指導員、59歳で登録基幹技能者を取得しました。

12年前に工事部長となり、現在は15名の職人を束ね、主任技術者としてマンション新築工事などの現場の統括、元請けとの調整とともに、最前線で鏝（コテ）を持って左官仕事をしています。

日々、成長していることを感じる事が出来る

【現在の仕事の魅力】

自分が携わった仕事が実際に残るため、通りがかった時などは感慨深くなります。特に皇居外苑の桃華楽堂（香淳皇后還暦記念ホール）工事は記憶に残っており、自身の誇りでもあります。

左官は手に職をつける職業であり、生活していくことにつながります。また、仕事をこなせるようになる、任せてもらえるようになるなど、自分の成長を感じる事が出来ます。身体が続く限り、会社に必要とされる限り、左官の仕事が続けていきたいと考えています。

会社員も左官職人も同じ将来の選択肢

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

仕事を通じて得られる「やりがい」や「成長」は、会社員も左官職人も同じだと思います。左官という仕事は皆さんの身近にないかもしれませんが、仕事をしているところを一度見て、もっと知って欲しいと感じています。一見簡単そうですが、実際やってみると難しい作業です。その作業が少しずつ出来るようになっていくことの中に、仕事の楽しさを感じてもらえると思います。

専務取締役の仕事の傍ら、
特殊技能が必要な擬木・擬岩等の仕事を担当。



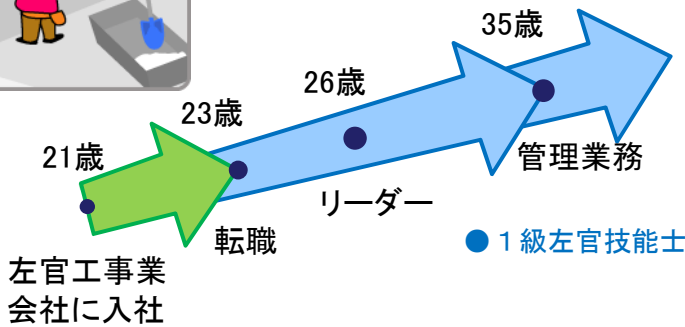
Yawata
八幡

Yoshihiko
吉彦

専務取締役

有限会社八幡工業 専務取締役

職歴15年／専務取締役
(昭和53年生・38歳)



キャリアパス凡例

- ➡ 初級技能者
- ➡ 左官工事業の
キャリアパス
- ➡ 他業種

主任技術者として、現場をまとめ、後輩を指導

【これまでのキャリアパス】

父親が左官職人で、小学三年生の頃に仕事をしている父親に「格好いいな」と感じました。若い頃はミュージシャンになろうと考えていましたが、20歳くらいで左官職人になることを決断して、建築の専門学校に入りました。卒業後は、左官工事業の会社に就職して3年間修行を積み、23歳の時に父親の会社に入社しました。

見習いからスタートして、しばらくは他の職人の下で働きました。26歳頃にリーダーとなり、年齢の近い職人と一緒に現場を持ち回りしながら仕事を回し、30歳で1級左官技能検定に合格しました。35歳の頃から受注や職人の手配など、管理側の仕事にまわるようになりました。当初は社長と相談しながら進めましたが、現在は自分の責任で任せてもらっています。
特殊な技能が必要な擬木・擬岩はできる人間に限られているので、自分も月に3~4回は現場に出て作業をしています。現場は体力的にきついこともありますが、作業に没頭できる方が自分の性分に合っていると思います。

タイミングと技術が一致した時に初めて良い仕事ができる

【現在の仕事の魅力】

左官工事業のやりがいは、建物の仕上げに携われることで、自分の仕事が表情として人の目に触れ、現れることだと思います。
今後は社員職人の技術力に磨きをかけて、お客様からの信用を得られる技能者集団として会社を大きくしていきたいと考えています。

技能を追及できる奥深い世界

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

左官技能を修得するには時間が必要ですが、くじけず、長い目で技能を積み上げていくことで、努力をすれば努力をした分、自身の能力を発揮できる仕事です。

大学卒業後、5年で職長。
6年目から工務として全現場を取り仕切る。

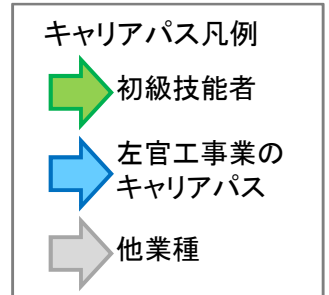
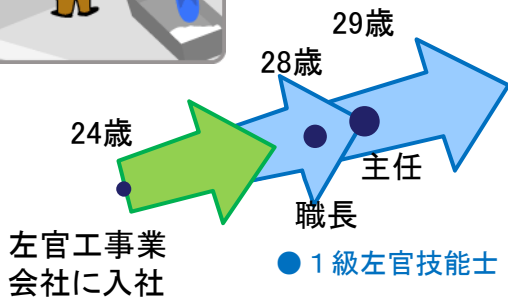
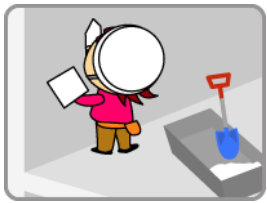


Kodama Makoto
小玉 真

工務

株式会社あじま左官工芸（伝統技術） 主任

職歴8年／工務担当
（昭和59年生・32歳）



職人から段取り業務全般を行う工務へ

【これまでのキャリアパス】

左官職人として経験を積む

大学の建築学科で学んでいた頃、教授から左官材料の魅力や仕事の面白さを教えてもらう機会があり、左官工事業に興味を持ちました。特に社寺建築の仕事に魅力を感じており、卒業後は左官職人として入社しました。

入社後3年間は見習いとして現場の補助作業をしながら、壁塗りの練習に励み、4年目からは職人として現場で鏝を持たせてもらいました。1級左官技能士の資格も取得し、5年目からは職長として現場を担当していましたが、6年目に社命で現在の工務業務を担当する主任となりました。

葛藤もあったが、現在はやりがいと責任を感じている

現場作業から内勤に変わったことで、勤務時間など、業務内容以外に生活も大きく変わりました。当初は現場作業が出来ない事への大きな葛藤があり、悩んだ時期もありましたが、現在は現場を上手く動かす段取りという仕事に対して、やりがいと責任を感じています。

楽しく、やりがいのある厚塗りの仕事

【現在の仕事の魅力】

各現場をまとめる職長と打合せを行い、作業人数の確認や社員・外注職人の割り振り、次の現場の打合せなど、段取り業務全般を担当しています。長雨が続く季節は工程調整や割り振りに苦勞しますが、上手く段取りできて現場がスムーズにまわった時はとても嬉しく感じます。

一方で、打ち合わせ内容が共有できていなかったり、連絡の行き違いなどから職長に迷惑をかけることもあるため、もっとスムーズに現場がまわるように努力していきたいと考えています。

楽しみながら技術・技能を高めていく

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

壁は下地から仕上げまで多くの工程があり、それぞれが奥深い世界です。また、建築物の中でも最も人の目に入り、触れる部分に携わるため、やりがいがある仕事です。一般的にはクロス仕上げなどが多いですが、左官の材料にしか出せない質感やぬくもりは大きな魅力だと思います。

20歳で一人親方として独立。

現在は職長として、現場を統括。



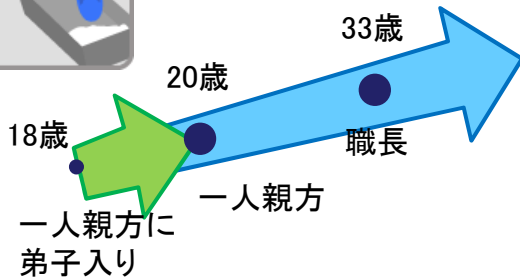
Hichywa
飛地和

Hideyuki
英幸

左官職人

一人親方（徳和工業株式会社（野丁場）専属請負）

職歴16年
（昭和56年生・35歳）



キャリアパス凡例

- 初級技能者
- 左官工事業の
キャリアパス
- 他業種

職長として5人の職人をまとめる

【これまでのキャリアパス】

父親が左官業

父親は左官職人で、自身も仕事の手伝いをした経験がありました。高校卒業後の進路を考えていた時、建設業の中で左官をやりたいと考え、左官職人の道を選びました。

当初は父親ではない親方の下について仕事をしていましたが、独り立ちしてからは父親と一緒に現在の会社で専属下請として仕事をするようになりました。

現在は職長を任されており、最前線で左官の仕事をしています。

現場のまとまりが良い仕事を生む

【現在の仕事の魅力】

現在は、職長という立場で現場を任されています。壁の仕上げ方や工期など、現場監督や他職種との調整が必要ですが、上手く現場をまとめ、良い仕事が出来た時には大きな充実感が得られます。

今後の目標としては、一層の努力を重ね、信頼を得るとともに、若い職人を積極的に育成していきたいと考えています。

奥深く、発見と突きつめる楽しさがある左官技能

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

左官技能はとても奥が深く、経験を積んで一人前として認められてからも発見と突きつめる楽しさがある仕事です。

就職直後は先輩職人の補助や補修工事など、あまり面白みがない仕事も多いかもしれませんが、そういった仕事の中でも日々の上達を感じられる仕事です。

父親とともに独立。現在は職長として、現場を統括。

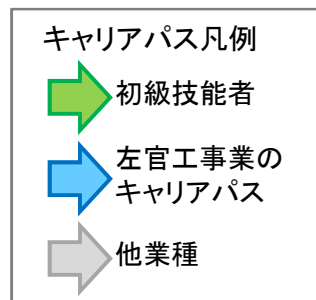
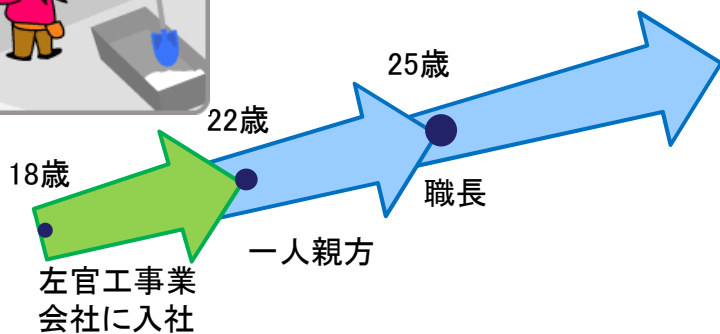


Hamada Yujiro
浜田 雄二郎

左官職人

一人親方（徳和工業株式会社（野丁場）専属請負）

職歴25年
（昭和48年生・43歳）



職長として現場をまとめる

【これまでのキャリアパス】

生活の中に左官があった

父が左官職人で、小学生の頃から仕事を見る機会など、身近な生活の中に左官がありました。高校卒業後は父親が勤務していた会社に左官職人として就職しました。4年ほどで父親とともに独立し、専属請負として仕事をしています。

職長として現場をまとめる

父親が手を動かす方が好きだったこともあり、25歳前後から職長を任されています。主にマンションの内外装工事において、元請や他職種との調整などを行いながら、現場をまとめています。

建物が建ち上がっていく過程に参加している、という実感

【現在の仕事の魅力】

左官工事業は建設現場の最初から最後まで関わる仕事であり、建物が建ち上がっていく過程に自分も参加している、という実感が得られ、特に完工した時には大きな達成感が得られます。

自分の仕事の中では、初めて職長として仕事をしたマンションが印象に残っています。苦勞しながらも先輩方をはじめ、多くの職人の力を借りて完工できたことが自信につながりました。

壁を塗る仕事だけが左官工事業ではない

【建設業に興味を持つ若者へのメッセージ】

一般的には左官という仕事を知らない人の方が多いと思います。是非、左官という仕事に触れ、こういった仕事もあるんだ、ということを知ってもらいたいと考えています。また、壁を塗るという仕事以外にも、職長として現場をまとめる、後輩の指導など、多くの職務があることも知ってもらいたいと思います。

今後は自身の経験や知識を若手に伝えるなど、育成に力を入れ、多くの左官職人の育成に取り組みたいと考えています。